

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部
リハビリテーション学科 作業療法学専攻

様式 3

2025年度 教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備 考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
健康医療 スポーツ 学部リハ ビリテー ション学 科作業療 法学専攻	4人	1人	4人	0人	9人	6人	8人	0人	1人	8.5人	
計	4人	1人	4人	0人	9人	6人	8人	0人	1人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	フレッシュセミナーⅠA	15	齊藤 一実、鎗田 英樹	専任
		フレッシュセミナーⅠB	15	鎗田 英樹、齊藤 一実	専任
		フレッシュセミナーⅡA	15	吉野 智佳子、勝嶋 雅之	専任
		フレッシュセミナーⅡB	15	吉野 智佳子、勝嶋 雅之	専任
		アドバンスセミナーⅠA	15	神間 俊男	専任
		アドバンスセミナーⅠB	15	神間 俊男	専任
		アドバンスセミナーⅡ	集中	齊藤 一実、藤田 のり子	専任
		基礎医療英語Ⅰ	15	小林 洋彦	兼任
		基礎医療英語Ⅱ	15	小林 洋彦	兼任
		情報リテラシー 演習・DS概論	30	齊藤 一実、勝嶋 雅之	専任
		ホリデー留学	集中	佐々木 良壽	兼任
		予防と介護	15	佐藤 正司、神間 俊男	専任・兼任
		人間関係論	15	坂本 美香	専任
		コミュニケーション論	15	庄司 一也	兼任
		異文化理解	15	非開講	
		統計基礎	15	藤田 のり子	専任
社会福祉原論	15	南 牧生	兼任		

基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	社会保障	15	石川 由美、南 牧生	兼任
		生涯福祉	15	石川 由美	兼任
		ボランティア論	15	南 牧生	兼任
		教育原理	15	矢作 信行	兼任
		教育方法・ICT活用論	15	神間 俊男	専任
		レクリエーション論	15	石井 友光	兼任
		レクリエーション実技Ⅰ	15	神間 俊男、吉野 智佳子	専任
		レクリエーション実技Ⅱ	15	勝嶋 雅之、吉野 智佳子	専任
		健康とスポーツ	15	植田 央	兼任
		障がい者スポーツ	集中	鎗田 英樹	専任
		SDGs概論	15	小森 次郎、新村 恵美、大塚 淳子、田中 良広、莊島 幸子、上野 治香、庄司 一也、小室 讓、鈴木 一行、小原 道子、松代 真琳、田澤 茂之	兼任
		SDGs各論A	集中	小森 次郎、上野 治香、松代 真琳	兼任
		SDGs各論B	集中	大塚 淳子、田澤 茂之、莊島 幸子	兼任
		SDGs各論C	集中	新村 恵美、小室 讓、庄司 一也	兼任
		SDGs演習	集中	新村 恵美、小森 次郎	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造Ⅰ	15	田中 直樹	兼任
		人体の構造Ⅱ	15	小針 友義、平山 哲郎	兼任
		人体の機能Ⅰ	15	大野 哲生	兼任
		人体の機能Ⅱ	15	大野 哲生	兼任
		人体の構造・機能(実習)	30	大野 哲生、平山 哲郎、田中 直樹	兼任
		病因病態学	15	喬 炎	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	運動学実習	30	齊藤 一実、藤田 のり子	専任
		運動学基礎	15	齊藤 一実	専任
		臨床運動学実習	15	藤田 のり子	専任
		臨床医学Ⅰ(内科系)	15	榎本 雪	兼任
臨床医学Ⅱ(外科系)		15	和田 佑一	兼任	

専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学Ⅲ（神経系）	15	榎本 雪	兼任
		精神医学	15	河村 代志也	非常勤
		精神障害論	15	鎗田 英樹	専任
	保健医療福祉とリハビリテーション概論の理念	リハビリテーション概論	15	関 一彦	専任
		リハビリテーション医学	15	関 一彦	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションと栄養	8	関 一彦	専任
		リハビリテーションと薬	8	鎗田 英樹	専任
		リハビリテーションと救急救命	8	小針 友義	兼任
		画像評価学	8	榎本 雪	兼任
	人体の構造と機能及び心身の発達	臨床心理学	15	平山 浩輔	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーション概論の理念	保健医療福祉学	15	藤田 のり子	専任
	人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	8	坂本 美香	専任
	専門	基礎作業療法学	作業療法概論	15	関 一彦
基礎作業療法学実習			30	勝嶋 雅之、鎗田 英樹	専任
基礎作業療法学			15	神間 俊男	専任
作業療法理論			15	勝嶋 雅之	専任
作業療法研究法			15	関 一彦	専任
作業療法管理学		職業倫理・管理学	15	関 一彦	専任
作業療法評価学		作業療法評価学総論	8	藤田 のり子	専任
		作業療法評価学各論	15	藤田 のり子、吉野 智佳子	専任
		作業療法評価学実習Ⅰ	30	藤田 のり子	専任
		作業療法評価学実習Ⅱ	15	鎗田 英樹	専任
作業療法治療学		身体障害作業療法治療学	15	吉野 智佳子	専任
		身体障害作業療法治療学実習	30	神間 俊男、藤田 のり子、齊藤 一実	専任
		精神障害作業療法治療学	15	鎗田 英樹	専任
		精神障害作業療法治療学実習	15	勝嶋 雅之	専任
		発達障害作業療法治療学実習	30	坂本 美香	専任

専門	作業療法治療学	高齢期作業療法治療学実習	30	神間 俊男	専任
		高次脳機能障害作業療法学実習	30	坂本 美香	専任
		日常生活活動技術学	15	吉野 智佳子	専任
		日常生活活動技術学実習	15	齊藤 一実	専任
		生活環境学	15	吉野 智佳子	専任
		職業関連技術学	15	鎗田 英樹	専任
	地域作業療法	地域作業療法学実習	15	齊藤 一実	専任
		地域作業療法学	15	勝嶋 雅之	専任
	作業療法治療学	義肢学・装具学	15	吉野 智佳子	専任
		身体障害作業療法学特論	15	齊藤 一実、藤田 のり子、 吉野 智佳子	専任
		高齢期作業療法学特論	15	神間 俊男、関 一彦	専任
		精神障害作業療法学特論	15	勝嶋 雅之、鎗田 英樹	専任
		発達障害作業療法学特論	15	坂本 美香	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	集中	鎗田 英樹、齊藤 一実	専任
		臨床実習Ⅱ	集中	勝嶋 雅之、吉野 智佳子	専任
		臨床実習Ⅲ	集中	坂本 美香、勝嶋 雅之	専任
		臨床実習Ⅳ	集中	勝嶋 雅之、神間 俊男	専任
		臨床実習Ⅴ	集中	勝嶋 雅之、藤田 のり子	専任
		臨床実習Ⅵ	集中	勝嶋 雅之、神間 俊男	専任
	基礎作業療法学 作業療法管理学 作業療法評価学 作業療法治療学 地域作業療法学	卒業研究	集中	鎗田 英樹、坂本 美香、 吉野 智佳子、関 一彦、 勝嶋 雅之、神間 俊男、 齊藤 一実、藤田 のり子	専任
臨床実習	臨床技能演習	集中	齊藤 一実、勝嶋 雅之、 吉野 智佳子	専任	
基礎作業療法学 作業療法管理学 作業療法評価学 作業療法治療学	特別総合演習	30	関 一彦、坂本 美香、 勝嶋 雅之、神間 俊男、 齊藤 一実、藤田 のり子、 鎗田 英樹、吉野 智佳子	専任	
保健医療福祉とリハビリテーション概論の理念	チーム医療論	8	仲 貴子、齊藤 一実、 高橋 勇二、中江 大、 鶴本 一成、津賀 裕喜、 竹内 信、田辺 幸子	専任・兼任	

専門	保健医療福祉とリハビリテーション概論の理念	チーム医療演習	集中	永瀬 つや子、柳澤 佳恵、 山田 美枝子、齊藤 一実、 玉井 清志、鶴本 一成、 津賀 裕喜、坂巻 彩夏、 仲 貴子	専任・兼任
----	-----------------------	---------	----	--	-------

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

● 基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
総合病院の見学	1年夏季休暇中	作業療法概論	1年前期
特別養護老人ホームの見学	1年夏季休暇中	作業療法概論	1年前期
発達支援センター等の見学	1年後期	作業療法概論	1年前期
精神科病院の見学	1年後期	作業療法概論	1年前期
地域医療・福祉施設の見学	2年後期	フレッシュセミナーⅡB	2年後期
身体・高齢期施設における評価実践	3年後期	作業療法評価学実習Ⅰ	2年後期
精神・発達施設における評価実践	3年後期	作業療法評価学実習	2年後期
身体・高齢期施設における治療実践	4年前期	作業療法治療学実習	3年前・後期
精神・発達施設における評価実践	4年前期	作業療法治療学実習	3年前・後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者のもとで実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導のもとで実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導のもとで実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導のもとで実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

【全学での体制】

自己点検・評価組織名	帝京平成大学自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	委員長：沖永 寛子（学長） 専攻からの委員：関 一彦（学科長）、鎗田 英樹 専攻内の評価チーム：鎗田 英樹、勝嶋 雅之
組織の開催頻度	年度内に2乃至3回
組織の取り組み内容	大学レベルでの自己点検・評価の実施と結果の公表 学位プログラムレベル（学科・コース等）での本学教育評価基準に基づく自己点検・評価の実施 本学アセスメント指標となる学内データの収集とそれに基づく点検・評価 教育成果把握のための各種調査（学修行動と学修成果に関する調査、卒業生に対する調査、就職先企業等に対する調査等）の結果に基づく点検・評価
自己点検・評価結果の公表	大学ホームページでの公表 https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure

【専攻での体制】

自己点検・評価組織名	健康医療スポーツ学部自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	関一彦、鎗田英樹、勝嶋雅之
組織の開催頻度	1年に一度
組織の取り組み内容	- 学生による授業評価の分析 - 委員による授業参観の企画 - 教育改善の研修会の開催企画
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL： https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/report ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

【全学での仕組み】

該当する 仕組み	名称	シラバス記載内容の点検
	委員構成等	各学科長、教務委員会構成員
	改善の仕組みの実際	本学シラバス作成要領に基づき、各教員がシラバスを執筆した後、教務委員会にて周知のうえ、学科長および教務委員が内容の点検を実施している。点検の結果、修正内容については報告書の提出を依頼し、提出された報告書をもとに修正内容を確認することで、シラバス内容の改善を図っている。

【専攻での仕組み】

該当する 仕組み	名称	教務委員会：シラバス記載内容チェック
	委員構成等	教務委員：関一彦、鎗田英樹、吉野智佳子
	改善の仕組みの実際	コース講義科目全体に目を通し、過不足および不適切箇所を確認し修正を依頼している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

1. 分科会（例年4月の専任教員説明終了後開催）での前年度総括と今年度方針の周知
 - 1) 学科長・コース主任
 - 2) コース各部門長
 - ・ 学生教育担当 : 鎗田英樹
 - ・ 臨床実習担当 : 勝嶋雅之
 - ・ 国家試験担当 : 吉野智佳子・藤田のり子
 - ・ 国際交流担当 : 鎗田英樹
 - ・ 入試・広報担当 : 坂本美香
2. 定例コース会議（1回/月）での、今年度の進捗状況確認と必要時に是正対策検討
3. 学科長・コース主任と自己点検評価委員（リーダー1名含む）との定期的な点検・確認・修正
 - ・ リーダー : 鎗田英樹
 - ・ ほかに : 勝嶋雅之
4. 教学マネジメント室との連携